

第3回

第1問

テーマ（費用逦減産業）

これは、現行の独立行政法人における独立採算性に絡めた論点であり、須田試験委員の研究テーマにも関連がある戦略的ミクロ経済学から出題した。

この問題では、費用逦減産業における限界費用価格形成、平均費用価格形成（独立採算性）が明示できれば合格点。

費用逦減産業については、周期的に鑑定士2次試験で出題されている。

第2問

テーマ（財政支出）

基本事項をいかに試験中にまとめて自分なりの解答を出せるかが勝負。

論点が複数あるが、自分が一番明確に導出できるテーマに特化して、現行の経済にあてはめることができれば合格点がつきます。

論点の抽出

抽出1:(効果1)一般的な乗数理論 乗数倍の波及効果が期待できるのは、財政支出が民間消費を直接的に刺激するからであり、同額の減税よりも効果が大きい。

抽出2:(効果2)クラウディング・アウト 財政支出を行えば、IS-LMを通じ利子率を上昇させる(所得の上昇 L_1 (取引的/予備的動機に基づく貨幣需要)の上昇 貨幣需要の上昇 利子率の上昇)。利子率の上昇は民間投資を抑制させる。

抽出3:(効果3) ISバランス式におけるGの増大。

$(S-I)+(T-G)=(X-M)$ を変形させて、民間収支(S-I)に対しコメントを加える。もちろん、その場合、貯蓄関数などの性質(消費関数との関係)を明示すると効果的である。

抽出4:(均衡財政)均衡財政は財政支出を行うための財源をそれと同額の増税を実施することであり、封鎖経済を仮定すると、その効果は1倍の波及効果をもたらす。

抽出5: 古典派、ケインズ派、マネタリストなどの主張の相違。

財政支出に関し、それぞれ異なった主張があり、その点をふまえて論述する必要がある。